

# コチニール色素による綿布の染色～桜の襲～

伊勢 光



桜の襲(源氏物語、花宴より)

## 1. 目的

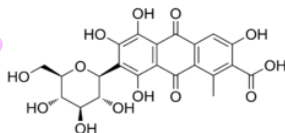
我々日本人は四季の移り変わりに伴う自然の豊かな色彩に古来から魅了されてきた。中でも桜は古くから日本人を魅了し、春の花として欠かせない存在であり平安時代では男性も正装の色として着用されていた。

本研究では、赤色に白の布を重ね、その透け色で桜色を表現する「桜の襲」の色調を、天然染料による染色で表現することを目的とした。さらに、得られた染色布を用いて、和装の桜の襲を洋装に転換させることを試みた。

## 2. 染料

### 天然色素コチニール

カイガラ虫から抽出  
主成分: カルミン酸



着色料としても✿  
染料としても✿

## 3. 染色

染料: 液体植物染料コチニール液EX10((株)田中直染料店)  
カチオン化剤: KLC-1 (同上)  
媒染剤: 硫酸アルミニウムカリウム

- ① 染色 85°C、30分 **コチニール染色のみ**: 綿は染まらず ⇒ 綿繊維との親和性低いから
- ② カチオン化 **染色** **カチオン化+コチニール染色**: 紫色に染色 ⇒ 目指す桜色ではない
- ③ カチオン化 pH調整 **染色** **媒染** 目指す桜色を再現

## 4. 染色堅ろう性

JISに基づき、染色堅ろう度試験を行った。

| 試験項目 | 等級      |
|------|---------|
| 汗    | ✿✿✿✿✿   |
| 摩擦   | ✿✿✿✿✿✿✿ |
| 紫外線  | ✿✿      |

汗、摩擦: 4級以上  
…繊維製品の基準クリア  
耐光: 3級以下  
…退色しやすい

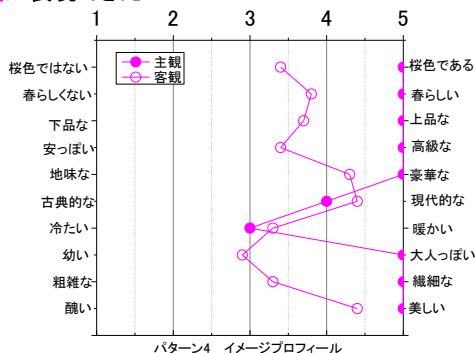
✿ 数が多いほど堅ろう性は良い

染色布の上に、ポリエステルオーガンジーを1枚重ねる

耐光性を得ると同時に**桜の襲**を表現

## 5. 桜の襲に対する官能評価

コチニール染色布にポリエステルオーガンジーを重ねたサンプル4種を提示し、桜の襲の製作コンセプトに対する評価を行った(学生9名)。パターン4が最も桜の襲を表現できている結果となり、染色布の上にオーガンジーを重ねることで、**現代版の桜の襲**が表現できた



## 6. まとめ

①コチニールを用いて綿布を桜色に染色するには、カチオン前処理では紫色が強すぎ、アルミ先または後媒染だけではほとんど染まらなかった。各処理の一般的な手法ではないが、カチオン化処理で過剰に色素を綿布に染着させた上で、アルミ後媒染することで桜色が再現できた。

②堅ろう度試験の結果から、コチニール染色布は耐光試験が3級以下と低いことが分かった。平安時代の「桜の襲」の表現を参考に、ポリエステルオーガンジーを重ねることで桜色の表現とともに耐光性も兼ねることが期待できる。



コチニール染色による桜色のドレス ～桜の襲～